



芦屋市議会議員・元新聞記者

川上あさえ

「政治・経済を20年間取材、そして市政改革に尽力！」

新聞記者として約20年間、社会問題と向き合い、4年前に芦屋市議会に押し上げていただきました。思うことは、国は国益を重視して強くあって欲しい。しかし、地域はもっと人にやさしく、思いやりがあつていい。議会では記者としてのこれまでの経験をもとに「税金の使い道」を常に検証し、問題提起を行ってきました。ムダのない行政を実現し、市民の為に役立つ健全な市政に向け、芦屋市を前に進めます！

川上あさえからご挨拶
＜川上朝栄＞

プロフィール

主な議員活動

- 2019年4月、初当選
- JR 芦屋駅南地区調査特別委員会副委員長などを経て、現在は総務常任委員長
- 日台友好議員連盟、日本ハイチ地方議員連盟監事
- 一般質問において「子育て・教育」関連の質問回数は全議員(21人)の中でトップ！

学歴

1973年12月28日生まれ、49歳
岡山白陵高、学習院大学経済学部卒業

職歴

産経新聞社に記者として入社。「JR 福知山線脱線事故」や「東日本大震災」「北朝鮮による日本人拉致問題」など事件事故の現場を奔走。「欧州通貨危機」や「リーマン・ショック」、「消費税引き上げをめぐる与野党攻防」など国内外の政治経済の第一線取材

著書

「関西経済大研究」(産経新聞出版) など4冊

趣味

テニス、スキー、高校野球鑑賞(記者時代に甲子園取材)、映画鑑賞(10代のころから映画館に通い詰め)

資格

社会福祉主事、介護職員初任者(福祉ボランティアに励んでいます)

2023年度予算で川上あさえの提案が実現します！



「ケア児」窓口設置

日常生活を営むうえで医療的援助が必要な「医療的ケア児」は年々増加傾向にあります。医療的ケア児支援に向けては2022年6月の本会議にて川上あさえが提案し、議会としてもケア児保護者を招いた研修会を開催しました。その結果、ケア児とその家族に対する相談・支援を総合的に調整する役割を担うコーディネーターを配置し、ワンストップで対応できる相談窓口が設置されます。放課後児童クラブにおいても看護師を配置し、ケア児の受け入れを開始します。

Q 医療的ケア児
恒常的に医療的ケア（人工呼吸器による呼吸管理や痰吸引、経管栄養等）を受けることが必要な児童。全国で約2万人がおり、10年間で2倍超のペースで増えている。



「川上あさえ新聞」で取り組み詳報 ▶

2~3カ月に一度のペースで「川上あさえ新聞」を発行。
議会での取り組みなどをみなさまにご報告しております。

部活移行を後押し

多忙を極める教諭の働き方改革と少子化の進展により学校単位での部活動存続が危惧されています。部活動指導の民間活用や中学校合同の部活動に向けては川上あさえが2022年9月の本会議で提案してまいりました。市教育委員会も新年度から「まずは休日の部活

動について円滑な地域移行を進める」としています。今後3年間を移行検討期間と位置づけ、持続可能な部活動の環境整備に取り組むとしています。

地域の指導者や施設を活用すれば市内で盛んなヨットなどこれまではない部活動としてスポーツ・文化活動を体験することも可能。市の大きなセールスポイントとなり、子育て世代の流入にも寄与できると考えます。

災害対策や教育…芦屋市を前に！

【これまでの取り組み】

◇いのちを守る

- ・芦屋川に堆積した土砂撤去（1938年の阪神大水害以来初）
- ・通学路の安全確保と点字ブロック配置
- ・災害時の避難所の装備拡充と情報発信強化

◇教育・子育て環境の整備

- ・スポーツなど潮芦屋ビーチ開放へ
- ・不登校対策にアプリ活用提案
- ・人権問題の啓発（北朝鮮による日本人拉致問題のパネル展開催。ハンセン病元患者への差別発言問題を受けた市民啓発）

◇透明性ある市政へ

- ・政務活動費の適正使用に向けた見直し
- ・弁護士、公認会計士等による「個別外部監査制度」導入



日台交流サミットに参加



北朝鮮による日本人拉致問題解決に向けた署名活動



老人ホームでボランティアに励んでいます